

第4回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

議事要旨

日 時：平成 29 年 3 月 9 日（木）15：00～17：00

場 所：名古屋ダイヤビルディング 1 号館 171 会議室

1. 開会

2. 開会あいさつ

(中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所長)

3. 委員長挨拶

4. 議事

(1) H28 年度試験度運用及び各部会の報告について

事務局より H28 試験運用及び各部会の報告について説明し、主に以下の意見を頂いた。

- ・ H28 の出水については利水容量の回復を優先させた操作であったが、洪水ハイドロの立ち上がり期の土砂濃度が高いことから、洪水ハイドロの立ち上がり期にバイパストネルが使えるような運用が行えるとよい。
- ・ 土砂収支については、シミュレーションと実測の比較検証を並行して実施するとよい。
- ・ バイパス吐口の採水管ではうまくデータが取れなかったようだが、鉛直方向の濃度分布の把握など貴重なデータとなるため、今後も維持管理しながらデータの蓄積を行うとよい。
- ・ 河床材料調査結果もシミュレーションの検証材料として用いるとよい。

(2) H29 年度モニタリング計画及び試験運用計画について

事務局より H29 年度のモニタリング計画及び試験運用計画について説明し、主に以下の意見を頂いた。

- ・ 土砂収支を把握する観点からは、減勢池を空にすることが望ましい。減勢池の掘削土砂を減勢池下流に置土するなどして下流河道への礫の流下状況をモニタリングすることも考えられる。
- ・ 下流河道については、SS 観測にこだわらず、濁度観測などにより排砂後の中小洪水時の状況についても把握したほうがよい。
- ・ 下流河道について、ユニットを意識した代表的な地点におけるモニタリング調査については、環境部会委員と相談しながら検討を進めること。
- ・ バイパストネルの補修指針を作成しておくこと。

5. 閉会